



『臨床小児腎臓病学』

清水凡生 編
中国四国小児腎臓病学会 出版

文・清水凡生
(教育学部)

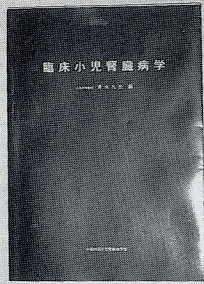
このような出版もある

「自著を語る」に投稿するように、という依頼を広報委員の先生からいただいた。本誌のこの欄はよく拝読しているが、今回小生が編者となって出版した「臨床小児腎臓病学」は、今までに掲載されている立派な著書と比較して、多くの点で異なっている。

最先端の研究の大成といったものではない。単著でもない。出版社から出版されたものでもない。そういったことで辞退をしたが、そのようなものでもよいという温かいお言葉をいただき、このような出版の方法もあるということをお知らせするという意味で書かせていただくことにした。

いまはやりの電子出版

平成六年十月に、小生が主宰する中国四国小児腎臓病学会が十周年を迎えた。この記念事業として、わが国に小児腎臓病学に関する本が少なくもあり、小児腎臓病に関する出版を企画したわけである。出版計画をいくつかの出版社



に交渉したが、過去の例から「小児」腎臓病の出版は採算が合わないとのことで引き受けてくれるところがなかった。

実はその前から、ネフロロゼ免疫研究会、中国四国小児心身症学会、広島県小児保健研究会などの会報編集を行っており、コンピュータによる編集で印刷版下を作成することを何度か行っていた。その経験から、フロッピーディスクによる投稿をお願いして電子編集による出版を考えたのである。

さまざまなフロッピー

中国四国地区の小児腎臓病の専門家ははじめ全国からそれぞれの領域における第一人者五十名余に執筆を依頼した。本学では第二外科の土肥教授(慢性腎不全・腎移植)と第二内科の頼岡助教授(内科からみた慢性腎炎の治療と予後)をお願いした。

面倒な注文であったが、皆快く了承していただき、全員フロッピーディスクで投稿していただいた。しかし、フロッピーへの保存がさまざまな機種で、さまざまなフープソフトで、さらにさまざまなバージョンのもので行われていた。この「さまざま」づくしには困った。多くのものが我々の研究室で使用しているマッキントッシュで単純には変換できなかった。この変換には、幼児心理学講座の深田講師に多大なご協力をいただいた。

いた。
最近の機種はMS-DOSでの保存が容易にできるが、古い機種ではできないものもある。機種を問い合わせたり、保存のし直しをお願いしたのもある。やむをえぬ場合には文字読み取り機を使用した。

小児腎臓病領域の解説書

内容は表に示すように十五章からなるが、節としては五十一項になる。最新の情報を各自独特な解釈で、また、自説を述べていただくようにお願いした。章の編集にも従来の型とは違った独自性を出したつもりである。

小生は、「微少変化型ネフロロゼ候群」の項でこの疾患における免疫異常の本態について長年主張してきたところを述べ、それに基づく治療法について述べた。ま

附表	序
第1章	病歴
第2章	臨床検査
第3章	異常所見と診断
第4章	腎系球体疾患
第5章	ネフロロゼ候群
第6章	尿路感染症
第7章	小児泌尿器科疾患
第8章	間質性腎炎
第9章	尿路結石
第10章	尿細管疾患
第11章	腎疾患の管理
第12章	合併病態の治療
第13章	学童の集団検尿
第14章	小児から成人へ移行する慢性腎炎
第15章	

好評で完売

お陰様で多くの方々から好評で、五百冊印刷して残部はわずかである。しかも、専門出版社に依頼して作成する自費出版に比べてわざわざ安価であり、本は一般出版社で作成されたものと全く遜色のない出来上がりであった。また、中国四国地区の大学医学部、医科大学の図書館に五百冊ずつ寄贈した。学生諸氏に小児期腎疾患の臨床、研究に興味をもって欲しいと思っている。

プロフィール

- ◆(しみず・ほんみ)
- ◆昭和三十五年広島大学医学部卒業
- ◆昭和四十年広島大学大学院医学研究科修了(医学博士)
- ◆専門Ⅱ幼児の言語獲得・技巧性の発達、小児腎疾患の臨床
- ◆所属Ⅱ教育学研究科幼児保健学講座

